

令和元年度

事業所名： グループホーム都南太陽荘 秋桜ホーム

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101917		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム都南太陽荘 秋桜ホーム		
所在地	岩手県盛岡市津志田中央二丁目3番20号		
自己評価作成日	令和元年9月30日	評価結果市町村受理日	令和2年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットにて運営しており、ご入居者間の交流も日常的に行われ、お互いに良い関係を維持している。荘内の中庭では季節の花や野菜を育てており、ご入居者と一緒鑑賞したり、調理に用いたりしている。職員は朝のミーティングを通して理念の唱和を行い、原点を見失わないようにしている。また、両ユニットの状況を常に把握するなど、必要に応じ応援協力が行いやすいよう努めている。夜間待機者体制の確立、AEDの設置など、緊急時の迅速対応や応援・指示連絡がスムーズに行えるよう環境整備に努めている。医療連携体制も確立し、幅広い支援、介護に努めている。行事(家族会、敬老会等)に関しては、ご利用者ももとよりご家族、職員等も楽しめる内容を心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0370101917-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「利用者の自己実現への導き」を理念の柱の一つとし、一人一人の生活歴や個性、特技、能力を見極めながら生き生きと自由に過ごせる暮らしの支援に努めている。秋桜・鈴蘭両ユニットは相互に連携し交流しながら、利用者は、紙細工や手芸への取り組み、当番制で食後片付け等の家事の担当を行い、なかには家族や知人の協力を得て入居前の地域サロンに出かけている方もいる。開設以降住宅開発が進んできた地域にあって、地域との懸け橋役を運営推進委員に担っていただきながら、利用者の「笑・和・輪・話・技で太陽荘の花を咲かせる」ことを目指し、傾聴ボランティアや菜園づくりボランティアの来訪、事業所を会場とした地域サロン「お日さまさんカフェ」の開催、災害時の地域協力体制の構築を進めてきている。夜間緊急時の迅速な対応により利用者の安心安全を確保していくため、職員は当番制による自宅待機態勢を整えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年10月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム都南太陽荘 秋桜ホーム

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にご入居者様、当荘関係者が「和」になることを目指した理念を、日々共有できるよう全体ミーティングにて唱和し、「共有」や「振り返り」に活かしている。	法人基本理念の「尊厳」「共生・協働」「自己実現」を踏まえた事業所の理念を定め、更にその実現に向けた具体策を事業所の運営方針として掲げている。毎月定例の全体会議では、基本に立ち返りながら、職員自らが出来ていないこと、実践したいことを話し合いながら、利用者の自己実現の支援に努めている。	法人理念、事業所理念、更には年度の運営方針、全体会議等での振り返りと、介護サービスの質の向上に真摯に取り組んでおります。今後を展望し、地域の中に太陽荘の花、「私」「和」「輪」「話」「笑」「技」を咲かせるよう、これらをテーマとする例えば月間での具体的な取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ひばり自治会に加入している。運営推進協議会をはじめ、自治会長や民生委員、地域包括支援センター、津志田児童センター等地域の様々な資源の活用に取り組んでいる。民生委員の方には緊急連絡網にも加わって頂いている。	自治会長は開設以降、応援者として、また地域の方々とのパイプ役として尽力され、草取りやハーモニカ演奏、傾聴ボランティアとして地域の方々が事業所に足を運ぶ機会が増えている。利用者も自治会や子ども達のお祭りに出かけている。不定期に事業所の様子を掲載した「都南太陽荘通信」を地域に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年「介護の日」、「家族会」といった行事を通して認知症への理解を深めて頂けるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、時々の議題やサービスの評価、地域とのつながりについて議論し、ファイルにまとめ、職員も共有し実際の取り組みに活かしている。	利用者家族代表、自治会長、民生委員、傾聴ボランティア、地域包括支援センター職員、市担当職員で構成し、2ヵ月毎に開催している。入居者の状況等を報告し、委員からは地域のイベントや要介護認定申請等に関する情報などが話されている。消防、警察関係者をゲストとして招き、火災や治安に関するお話も頂いている。委員には事業所行事にも出席いただいている。	これまでに築いた地域資源との関りを強化していくためにも、例えば保育所や小中学校の関係者をゲストで招聘し孫世代の情報や交流も更に深められるような工夫も望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協会や地域ケア会議などに出席、協力関係の維持に努め、各種相談にご指導頂く等適正な運営やサービスの向上に活かしている。また、近年は市職員の方にも運営推進協議会に参加して頂いている。	市、地域包括支援センターには、運営推進会議の委員を委嘱し事業所の運営に指導、助言を得、困ったときは何でも相談出来る関係にある。地域包括支援センターからは、事業所を会場として自治会が主催し、地域の方々が自由に集う「おひさまさんさんカフェ」の応援も頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時以外の身体拘束をしないケアを実践し、ご入居者の「尊厳」、「安心」の配慮に取り組んでいる。また、運営推進協議会での身体拘束廃止に関する委員会活動内容を職員にも周知し研修も行っている。	指針を定め、職員研修を年2回開催し、委員会は運営推進会議に引き続き開催している。スピーチロックの防止は常に意識しているが、つつい口にしてしまうこともあり、その都度、職員同士で繰り返し注意し合っている。保護者の同意を得て、両ユニットとも1台ずつセンサーマットを使用している。玄関の施錠は夜間に限っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を防止し、ご入居者の行動を制限しないよう他ユニットと連携をし、見前警察署や盛岡南消防署との連携にも努め、万が一のエスケープにも備えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当荘でも成年後見制度を利用されている方がいたこともあり、地域会議等での学習も職員の共有に活かしている。ご入居者様やご家族様のニーズに応じ、相談や支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には入居者様、ご家族様に理解、納得して頂けるよう説明を行い速やかな入居を支援している。また退居時の支援やその後の相談など、可能な範囲での支援も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の苦言の他、言葉にならない不満をくみ取り、最善の支援法について協議し取り組みに活かしている。また、運営推進協議会や家族会等第三者の方の意見も参考にしている。	家族向けの広報紙を年2回発行し意見・要望を出しやすい環境づくりに努め、また、介護の日には「家族会」を毎年開催し、その把握に努めている。出来れば利用者の外出機会を多くとの要望があり、事業所周辺環境と職員体制を考慮しながら対応することとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の「申し送り」「ミーティング」「カンファレンス」等を通して出た意見を「業務報告」「全体会議」等にて運営者とともに協議し、より良い支援活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のヒアリング、日々の業務の中の会話等を通じてできるだけ相談等に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	荘内では全体会議時に内部研修を実施。新入職員の育成にはOJT振り返りシートを活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の会議や研修等に参加し、同業者との交流を行い、情報交換を行うことでサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や申し込み時から、当荘への見学の機会を設け、ご本人様の思いや希望を汲み取れるよう努めている。また、ご本人との面談時にお話を伺い、「何を求めているか」を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や見学時などに、ご家族のニーズを汲み取り、要望や不安等時間の許す限りご相談に応じ、事例等もふまえて、情報を提供できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人への相談内容から「何を求めているのか」を見極め、最善のアドバイスを心掛けるとともに他のサービスに対しても情報提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできるお手伝いや荘内の仕事を一緒に行うことによって、ご入居者一人ひとりの個性を生かした日常生活支援を行い、感情を共有し合える環境づくりに職員、関係者が一丸となって取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者の状況に変化があった場合等その都度連絡をとり合い情報を共有し、その後の支援について協力関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の意向を配慮しながら馴染みのある方の面会を歓迎し、故郷への外出、外泊等、ご本人の希望を少しでも実現できるよう努めている。	家族、友人知人がしばしば訪ねてくる。一方、「最初から禁止しないで自由に」とする事業所の考え方そのものに、入居前に通っていた地区公民館での「サロン活動」に地域包括支援センターの職員の送迎で出かけ、お茶のみし、お昼をいただいている方や、毎月馴染みの美容院に通いながら、馴染みのお店の方の送迎で丸一日リラックスした時間を過ごしている高齢の方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いや日常の創作活動を通して、利用者同士の関わり合いを大切にした支援を行っている。また、利用者同士がコミュニケーションを行いやすい環境作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様には次の受け入れ先の支援後でも、いつでも相談可能であることをお伝えしている。また、必要に応じ情報提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の意見、意向をくみ取り、ご本人の気持ちに寄り添い、希望を可能な範囲で具現化し、自己実現へ導いていけるよう努めている。	入居間もない時期には全員を対象として記録している「24時間シート」が思い把握の基礎となっている。行きたい、したいとする利用者の希望があっても物理的に困難な場合が多く、苦慮するところだが、利用者が話の中で「ここにいれば安心して暮らしていけることが一番」としてくれることに、職員はやりがいを感じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式も活用、ご家族様や関係機関の情報提供を最良の支援に活かせるよう努めている。また、ご本人様とのコミュニケーションや日常の過ごし方などで生活スタイルをなるべく把握できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のモニタリング、ケース記録やコミュニケーションを欠かさず、その都度改善策等についてミーティングやカンファレンスで話し合い、最良の支援を行えるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活より汲み取られたご本人の意向やご家族様からの意向、主治医の意見等から見てきた課題、提案をカンファレンスにて協議し、介護支援専門員が介護計画の作成と見直しに取り組んでいる。	介護計画は原則3ヵ月毎に見直している。職員全員が参加するそれぞれのユニットのカンファレンスでの議論を基礎に、ケアマネージャーが原案を立案し、家族の同意を得て確定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活における「気づき」を個別の「ケース記録」、「モニタリング記録」等に記録し、その都度職員間で意見を出し合い、カンファレンスを行い介護計画に反映させている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「予防」から「支援」、「介助」、「介護」と個々の利用者様の特性や状態に応じた多機能支援、両ユニット間での協力で行う行事や日常生活支援、都南地区の地域の利便性を生かした支援など、柔軟な支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々行事を通じて地域の民生委員の方、ボランティアの皆様との交流を図り、充実した日々を送っていただけるよう支援している。また、荘2Fのスペースも開放し地域の方の交流の場として使用して頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望に沿った受診支援をしている。状況に応じて複数箇所の受診の支援も行っている。	基本的には、家族の付添いで入居前のかかりつけ医を受診しているが、協力医受診の利用者については職員が同行している。日常の健康管理は、委託先の訪問看護ステーションの看護師が担っている。病変に限らず、夜間の緊急時に対応できるよう、荘長、2人の管理者の3人が、交代で自宅での夜間待機とし、万全を期している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者が精神的、身体的に気にかけている事等を職場内の看護師に相談、また週1回の訪問看護師からもアドバイスを受けて対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関への情報提供、職員による面会を通して早期退院に向けた支援を行っている。また、かかりつけ医との情報交換を行い、できるだけ速やかに入院・治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が入院や治療等を必要とする状態となった際には、それに対するご本人やご家族の考え方を尊重し、その支援のあり方に日常的に取り組んでいる。	かつて全職員が出席する全体会議で、看取りについて議論した経緯もあるが、現在は看取りを行っていない。入居に当たって「重要事項説明書」で、家族の希望を最大限尊重し、看取りを行う場所や治療等について支援する旨を説明しており、医療的措置が常時必要又は口からの食事が困難になった場合が、この支援に該当するとしている。看取りに関する職員研修の必要性は感じているとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等には、看護師や施設長に報告し、できる範囲の応急処置に努めている。全職員ができるだけ初期対応を速やかに行えるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しての定期的な訓練を実施し、マニュアルに基づいた行動がとれるよう努めている。児童民生委員の方には緊急連絡網にも登録させて頂いている。	避難所として近傍の小学校、公民館が指定されているが、避難後の支援等を考慮し、水害に関する避難計画では、事業所での2階への垂直避難としている。夜間想定避難訓練を実施し、2人で2ユニットの誘導避難は現実的に困難を伴うことなどから、職員は輪番での夜間待機の仕組みを作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の経験者、先輩として「その人らしさ」を尊重し、一人ひとりに適切と思われる声掛けやコミュニケーション、接遇に心掛けている。また、個人情報に関してはご家族と確認を行い、適切に管理している。	職員は、声掛けし話を聴くことにより、利用者の体調や考えていることを推し量っている。その上で、利用者に合ったその日の介護の在り方を描き、利用者の個性を活かし、理念に掲げる「尊厳」を守り「自己実現」を具体化する介護に努めている。申し送りやミーティングでは部屋番号で利用者を特定している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からご入居者との会話や生活支援を通じてご本人の希望や意見を汲み取り、必要以上に手を出しすぎないよう気を付け、ご入居者の自己実現へ向け、日々より良い支援を心掛けて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせた柔軟な支援を行い、共同生活の中でも「個人の生活」に配慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合わせた衣類を着て頂けるよう支援、また訪問床屋・美容室を活用し、可能な限り工夫してご本人の望む整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「やりがい」を実感できるよう、食事の準備等できることをして頂いている。また、当番表を活用し、一人のご入居者ばかりでなく、皆様にお手伝いして頂けるよう工夫している。	両ユニットが協力し、献立は両ユニット1名ずつの担当者が立て、買い物は交互に出かけ、同じ献立のものを協力して調理している。嫌いな献立の場合には別の食事を提供している。利用者は、盛り付け、片付けに参加しているが、感染症の予防にも留意し、可能な範囲で調理のお手伝いもして頂いている。季節ごとの行事として提供するお節料理やお寿司等は利用者の笑顔と話題が更に弾み食卓を賑わしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を日々確認し、状態に応じた工夫、声掛け等の支援を行なっている。また、食事量の少ない方に対しては訪問看護師や主治医とも相談し高栄養剤等の検討や対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア支援に努めるとともに、ご本人からの訴えや訪問看護師からのアドバイス等があった際には歯科受診の検討、通院治療支援に努めている。また、義歯使用の方には、義歯洗浄剤も活用し支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに向かわれる方含め、食事前や定期的にトイレの声掛けを行っている。夜間はご本人様の希望等でポータブルトイレも活用、歩行の不安定な方でも可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	両ユニット合わせて7名の利用者が自立歩行し、その他の利用者を含め基本的にトイレを使用している。高齢の利用者でも昨年まで布パンツを使用していた方もいた。秋桜ホームの利用者全員は夜間でも誘導の必要はなく、自分で起きてトイレ又はポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合った水分補給の仕方を検討、実施しできるだけ多く水分を摂って頂けるよう努めている。また、乳製品等も摂取して頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングやご本人の希望に添えるようその方の意思の把握に努め、また、楽しんで入浴して頂けるよう長年馴染んだ入浴方法の把握にも努めている。	午後を入浴の時間とし、希望により概ね週に2、3回入浴し、翌日が通院日の利用者を優先したうえで毎日でも入浴出来ている。秋桜ホームでは入浴を避けたがる方が多く、職員は同性介助に努め、声掛けのタイミングを見計らったり、トイレの帰りに誘うなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にぐっすり休めるよう日中帯にレク等の活動を行っている。日中帯の臥床時間が長くないよう生活リズムに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース記録やお薬手帳、連絡ノート等で情報を共有している。内服時は職員の声を出しての確認の他、ご利用者様にも確認して頂き誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居前の生活歴などの把握に努め、可能な限り入居前の生活に近づけられるよう支援に努めている。また、一人ひとりの状況に沿った対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、その時の天候に考慮して、ドライブや地域の行事などへ出かけている。また、ご家族やなじみの方との旅行や外出等にも気兼ねなく出かけられるよう支援を行っている。	事業所前の道路は車の往来が頻繁で、利用者がゆっくり散歩する環境にないことを課題としているものの、職員駐車場に並べてあるベンチを利用したり、工夫しながら外気浴の環境を作っている。毎月数回は、四季折々のドライブで花見、紅葉狩りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限りご本人の希望に沿うかたちで、ご家族の協力のもと、(必要最小限の)お金の所持や買い物物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は事務所の電話をご利用いただき対応している。手紙等は必要な物品の購入等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花、皆様の写真、創作品等を飾り、天窓からの自然光、中庭に面した窓から菜園の風景を楽しんで頂いている。また、空気清浄器や冬季には加湿器を設置し居心地良い環境作りに努めている。	鈴蘭ホーム、秋桜ホームの両ユニットは、厨房を中心に事業所1階に対称的に配置され、それぞれのホールには職員と利用者が一緒に作った折り紙や塗り絵の作品が飾られている。天窓から差し込む自然光には、よしずのカーテンで間接照明に配慮しており、落ちついた環境の中で利用者は塗り絵等の趣味に興じたりテレビを観ている。床暖房、空気清浄機で室内は快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの自席以外にもソファや他ユニットへの移動も自由に行って頂いている。お手伝いや塗り絵等の活動を通して自然とご入居者同士の会話が弾む機会も見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもと、ご本人のなじみのある品々を持ち込んで頂き、より安心できる空間作りを支援している。	6畳程の居室には、ベッドに加え、大型のクローゼットと飾り棚が備えつけられ、どの部屋も整理整頓が行き届いている。飾り棚にはポータブルテレビ、写真、目覚まし時計、利用者によっては位牌など、思い思いのものが置かれている。訪ねてくる家族が座るのか、使い込んだパーソナルチェアを持ち込んでいる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造となっているが、ベッド手すりや手押し車、ポータブルトイレなど、できるだけ自立した生活を送っていただけるよう個々に工夫し対応している。		